

## 企画競争実施の公示

2023年3月22日

独立行政法人 国際観光振興機構  
ソウル事務所 所長 北澤 直樹

企画競争について、次の通り公示する。

### 1. 業務概要

- (1) 業務名 2023年度韓国市場における商談会・イベント（日韓交流おまつり）出展事業
- (2) 業務内容 日韓の観光業界関係者による商談会を開催し、更なる訪日旅行商品の造成と販売促進をすることで 韓国からの訪日旅行者数の増加と旅行消費の拡大を図ることを目的とする。また日韓交流おまつり（ソウル市で開催予定）にブース出展し、訪日未経験層を含めた一般消費者に新たな日本の魅力を情報発信し、一層の訪日旅行の動機づけを強化する。
- (3) 履行期限 2023年12月27日（水）

### 2. 企画競争参加資格要件

- (1) 独立行政法人国際観光振興機構契約事務実施細則第26条に規定されている競争参加者の制限に該当しない者。

○独立行政法人国際観光振興機構契約事務実施細則（抄）

（競争参加者の制限）

**第26条** 次の各号のいずれかに該当すると認められる者は、競争に参加させることができない。

- (1) 契約を締結する能力を有しない者
  - (2) 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者
  - (3) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第32条第1項各号に掲げる者
  - (4) 国又は地方公共団体（以下「国等」という。）から指名停止の措置を受けている者
- 2 次の各号のいずれかに該当すると認められる者は、その事実があった後3年以内の期間を定めて競争に参加させることができない。これを代理人、支配人その他の使用人として使用する者についても、又同様とする。
- (1) 契約の履行に当たり故意に工事、製造その他の役務を粗雑に行い、又は物件の品質若しくは数量に関して不正の行為をした者
  - (2) 公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を害し、若しくは不正の利益を得るために連合した者
  - (3) 落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げた者
  - (4) 監督又は検査の実施に当たり職員の職務の執行を妨げた者
  - (5) 正当な理由なくして契約を履行しなかった者
  - (6) 契約により、契約の後に代価の額を確定する場合において、該当代価の請求を故意に虚偽の事実に基づき過大な額で行った者
  - (7) 前各号のいずれかに該当する事実があった後2年を経過しない者を契約の履行に当たり、代理人、支配人、その他使用人として使用した者
- 3 前項の規定に該当する者を入札代理人として使用する者を競争に参加させないことができる。
- (2) 過去3年間に於いて韓国による法律により罰せられたことがないこと。
  - (3) 韓国において法人登記（個人事業者の場合は、住民登録）がなされているとともに、法人税等の諸税を滞納していないこと。

- (4) その他独立行政法人国際観光振興機構（以下、機構という。）が必要と認める要件

### 3. 手続き等

- (1) 実施部署  
独立行政法人国際観光振興機構 ソウル事務所 担当：大平  
住所：Hotel President 2F Euljiro 16, Jung-gu, Seoul, Korea  
電話：02-777-8601、FAX：02-777-8612、Email：[jntosel\\_kouji@jnto.go.jp](mailto:jntosel_kouji@jnto.go.jp)
- (2) 企画競争説明書の交付期間  
2023年3月22日から2023年4月20日17時00分まで（韓国時間）。
- (3) 企画競争説明書の交付場所  
（1）に同じ。
- (4) 企画競争説明書の交付方法  
手交又はEmailによる交付。  
企画競争説明書の交付を希望する場合は、予め（1）の担当まで事前連絡を行うこと。
- (5) 企画提案書の提出期限  
2023年4月24日17時00分まで（韓国時間・必着）。
- (6) 企画提案書の提出場所  
（1）に同じ。
- (7) 企画提案書の提出方法  
持参又は郵送（郵送の場合であっても、提出期限までに必着で、配達記録が証明できるものであること。
- (8) 説明会実施の有無  
無
- (9) 企画提案に関するヒアリングの有無  
必要に応じて行う場合がある。

### 4. その他

- (1) 手続において使用する言語及び通貨は日本語及び韓国ウォンとする。
- (2) 関連情報を入手するための照会窓口は、3.（1）に同じ。
- (3) 企画提案書の作成及び提出に要する費用は、企画提案者側の負担とする。
- (4) 提出された企画提案書は、当該提案者に無断で二次的な使用は行わない。
- (5) 企画提案書に虚偽の記載を行った場合は、当該企画提案書を無効にするとともに、記載を行った応募者に対して指名停止を行うことがある。
- (6) 特定した提案内容については、機構の情報公開に係る審査基準に基づき、開示請求があった場合、あらかじめ「開示」を予定している書類とする。
- (7) 提案を特定された者は、企画競争の実施の結果、最適な者として特定したものに過ぎず、機構の会計規程等に基づく契約手続の完了までは、機構との契約関係を生じるものではない。
- (8) 提案者が2. に示した企画競争参加資格要件を満たしていることを確認するために、信用調査を実施する場合がある。その結果を踏まえて、特定後であっても契約を締結しないこともあり得る。
- (9) また、付加価値税の税務当局への支払については、受注者において責任を持って対処すること。
- (10) 企画競争の実施結果として、以下の項目について、公表することとする。  
① 採用した提案を行った企業等の名称、住所、代表者氏名及び決定日
- (11) 本業務は、日本政府2023年度予算の成立を条件とし、契約締結及び業務の実施は予算成立後に行うこととする。
- (12) その他の詳細は企画競争説明書による。

以上